



あおぞら・日本株式フォーカス戦略ファンド
愛称：しゅういつ

基準価額の推移（日次）

2015年3月12日 ~ 2024年3月29日



※上記の基準価額の推移は、設定日前日2015年3月12日を10,000円として計算しています。
 ※基準価額の推移は、本ファンドの信託報酬控除後の価額です。
 ※分配金込基準価額は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。
 ※上記は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
 ※JPX日経インデックス400は本ファンドのベンチマークではありません。参考指標として掲載しています。

運用実績

2024年3月29日現在

基準価額

18,550円

前月末比 +604円 (3.4%)

純資産総額

16.30億円

前月末比 +0.69億円 (4.4%)

期間騰落率(年率換算前)

期間	ファンド	参考指標
1ヵ月	4.0%	3.6%
3ヵ月	18.0%	17.2%
6ヵ月	21.1%	19.8%
1年	38.7%	38.7%
3年	50.6%	42.1%
設定来	101.9%	78.1%

分配金 (1万口当たり、税引前)

決算期	分配金
2022年3月	100円
2022年9月	100円
2023年3月	100円
2023年9月	100円
2024年3月	100円
設定来合計	1,100円

設定日：2015年3月13日
 ※本ファンドの期間騰落率は、信託報酬控除後のものです。なお、換金時の費用、税金等を考慮していません。
 ※本ファンドの期間騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。また、実際の投資家利回りは異なります。
 ※上記は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
 ※収益分配金実績は、将来の分配金の水準を示唆あるいは保証するものではありません。
 ※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合や、分配金が支払われない場合があります。

運用実績（続き）

<資産構成比>

資産	比率
株式	98.0%
現預金・その他	2.0%
合計	100.0%

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対する割合に、本ファンドにおけるマザーファンドの組入比率を乗じて算出しています。
※「現預金・その他」がマイナスとなる場合がありますが、未払金が一時的に現預金残高を上回ることなどによるものです。

マザーファンドの状況

本ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、当頁ではマザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。

2024年2月29日現在

銘柄数	17銘柄
-----	------

<業種構成比>

業種	構成比
電気機器	21.4%
化学	14.9%
医薬品	11.8%
銀行業	9.1%
卸売業	9.0%
輸送用機器	8.6%
機械	7.4%
小売業	7.3%
保険業	5.5%
サービス業	5.0%
合計	100.0%

※比率は、保有株式の時価総額に対する割合です。

※コメントはアリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパンの情報を基にあおぞら投信（以下、「当社」または「委託会社」ということがあります。）が作成しています。

<マーケット・レビュー及び投資行動>

3月の国内株式市場は、上昇しました。月前半は、日銀の政策修正への警戒や円高進行が重石となり、揉み合いました。その後、日銀金融政策決定会合でマイナス金利が解除されたものの、今後も緩和的な政策維持が示唆され、円安基調に転じると、国内株式市場は上昇しました。業種別では、不動産業や鉱業などがアウトパフォーム（参考指標を相対的に上回ること）した一方で、海運業や医薬品などがアンダーパフォーム（参考指標を相対的に下回ること）しました。

そのような環境下、本ファンドの参考指標であるJPX日経インデックス400が3.6%の上昇となる中、本ファンドのパフォーマンスは4.0%の上昇となり、参考指標を上回りました。電気機器や小売業などでの銘柄選択がプラスに寄与した一方、卸売業や機械での銘柄選択はマイナスに影響しました。

<個別銘柄>

コンコルディア・フィナンシャルグループは、今期も堅調な利益見通しと増配を打ち出しており、出遅れバリュエーションの解消が株価の上昇要因となると考えています。

伊藤忠商事は、堅調な非資源事業に加え、着実な配当成長を今期計画に掲げるなど、株主還元の一環の改善が期待されます。

信越化学工業は、半導体市場と北米住宅市場の好転で恩恵を受け、好調な業績の達成確度が高いと判断しています。

スズキは、好調なインド市場でのSUV（多目的スポーツ車）新モデル投入や、国内での価格改定が業績モメンタムを加速させ、EV（電気自動車）への開発費増大を乗り越えて、収益拡大の継続が期待されます。

日立製作所は、パワーグリッド、鉄道、ITサービスなど主力事業を自社のDX（デジタルトランスフォーメーション）プラットフォームに落とし込んで効率化させ、全社的な収益性改善への取り組みによって、利益成長の継続が期待されます。

<市場見通し/投資方針>

生成AI（人工知能）関連や円安の追い風、価格転嫁の達成、人流・インバウンド旅行者の回復を背景に、国内株式市場は過去最高値圏で推移しています。今後は、こうした投資テーマに基づく網羅的な投資行動が一巡し、技術進化や持続的なインフレ・価格転嫁力をもとに業績を伸ばし、ガバナンス改革を断行する実践力が問われるため、個別企業の調査力がより重要になると考えています。日銀はマイナス金利を解除したものの、緩和的な金融環境の維持を示唆しており、実質金利は低水準にとどまるでしょう。また、米国では、インフレ鎮静化に確信が持てず、年内の利下げ見込みが縮小するなど、株式市場の変動要因となる先進国のインフレと金融政策を引き続き注視していく方針です。

一方、①デフレからインフレへの移行、②賃金上昇期待と生産性の改善、③資本コストの認識の変化に基づき、国内株式市場は大きな転換点にあると認識し、企業価値の向上が相対的に優位なパフォーマンスにつながると考えています。こうした経営のボトムアップの構造改革期待により、息の長い右肩上がりの市場が形成されることを期待しています。個別企業の稼ぐ力に着目しつつ、改革実行力のある企業が持続的な収益性の改善を可能なものにとできると考え、長期的な時間軸で投下資本収益率を引き上げていく経営施策に着目した銘柄選択を継続する方針です。

組入上位10銘柄のご紹介

組入17銘柄（2024年2月29日現在）

銘柄	業種	銘柄概要	組入比率
1 コンコルディア・フィナンシャルグループ	銀行業	<p>「人材ポートフォリオ改革を通じた生産性向上」</p> <p>横浜銀行と東日本銀行から構成される金融持ち株会社。近年では貸出ビジネス以外の事業拡大により、“ソリューションカンパニー”への転換を目指しており、その事業変革を支えるために、構造改革による生産性向上を図り、人材ポートフォリオ改革を推進している。今後も、生産性向上施策や継続的な株主還元の実施によるROE向上が中長期的に期待される。</p>	8.8%
2 伊藤忠商事	卸売業	<p>「強力な経営トップマネジメントに牽引された次世代商人」</p> <p>強味である生活消費分野における商品やサービスの新たな価値の提供に取り組んでおり、その結果、コロナ禍にあっても2022年度には2年連続で連結純利益8000億円超を達成。また、株主還元策も着実に拡大している。地政学リスクの高まりや、資源価格高騰、インフレ等の不透明な経営環境の中でも、利益水準を維持すると見込む。</p>	8.6%
3 信越化学工業	化学	<p>「素材と技術による価値創造を通じて、暮らしや社会と産業に貢献する」</p> <p>6つの事業分野を中心に、産業や生活の基礎となる素材、製品を作る化学メーカー。1960年代に他社に先駆けて海外へ進出し、今日では売り上げの7割超を海外が占めている。経営効率が良く、世界のトップシェアを誇る塩ビ（塩化ビニル樹脂）、半導体用シリコンウェハーなどの分野で恩恵を受けることを見込む。</p>	8.5%
4 スズキ	輸送用機器	<p>「小さなクルマ、大きな未来」</p> <p>成長著しいインドで圧倒的販売シェアを有する同社は、商品性、生産力、販売力の全ての分野で優位性を維持拡大すべく成長戦略を推進しており、販売台数増加に加えて製品構成の良化（高価格品の比率上昇）による売上増を見込む。また、インドネシアとタイ等でも生産拠点を育成しており、インドから”アジア地域”へ大幅な事業拡大を期待。</p>	8.3%
5 日立製作所	電気機器	<p>「DX～デジタルトランスフォーメーション～で、よりよい社会へ」</p> <p>IT投資拡大や社会インフラの安定的・長期的需要の取り込み、デジタルトランスフォーメーションに向けての構造改革の進展などにより収益成長が見込め、コロナの悪影響も剥落することから、株価の上値余地が大きいと判断。大胆な事業ポートフォリオの組み替えが行えるマネジメント力も評価。</p>	8.3%
6 東京エレクトロン	電気機器	<p>「AI普及から大きな恩恵を受ける半導体製造装置メーカー」</p> <p>世界トップクラスの半導体製造装置メーカー。急成長する生成AI向けの需要拡大による中長期的な成長見通しに加えて、2024年は既存事業の循環的な回復が期待できることや、中国における半導体自国生産の体制確立のための設備投資などにより、通常の設備投資サイクルを上回る業績の拡大を見込む。</p>	7.3%

銘柄	業種	銘柄概要	組入比率
7 パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス	小売業	<p>「ユニークな店舗展開により、国内外での成長を実現へ」</p> <p>ドン・キホーテを中心としたユニークな店舗展開により、持続的な収益拡大を遂げてきた日本を代表する小売企業の一つ。顧客のニーズを捉えたPB商品の開発や効率的な店舗オペレーションの進展などにより、粗利益率の改善を遂げてきている。今後もインバウンド需要の取り込み拡大も含めた国内成長に加え、中長期的にはアジアでの出店成長に伴う収益拡大を期待。</p>	7.1%
8 レゾナック・ホールディングス	化学	<p>「構造改革により成長分野への注力が期待される化学メーカー」</p> <p>同社は、昭和電工と日立化成の統合で誕生した化学メーカー。新しい経営陣が主導する事業ポートフォリオの構造改革により、同社は総合化学メーカーから、半導体材料事業などの成長性の高い分野に注力するスペシャリティ化学メーカーへ変貌を遂げると期待される。</p>	5.8%
9 第一三共	医薬品	<p>「がん領域でのグローバル創薬企業へ」</p> <p>非医薬品事業などのノンコアビジネスの売却も実施し、医薬品事業、特にがん領域への経営資源の集中を図っており、近年では複数の適応症で承認を取得している抗がん剤・エンハーツを中心に、非常に高い売上成長を果たしている。2023年10月には米メルクとの3つのADC（抗体薬物複合体）についての開発・販売に関する提携を結んでおり、今後も中長期的な利益成長が期待される。</p>	5.7%
10 参天製薬	医薬品	<p>「眼科領域のトップ医薬品メーカー」</p> <p>眼科領域でのトップ医薬品企業として、ドライアイや花粉症などを治療する、医療用医薬品から一般用医薬品まで展開している。日本以外にも中長期的な事業成長を目指し中国事業の拡大を図ってきている。世界的な人口増加や高齢化、ライフスタイルの変化などにより、中長期的にアイケア市場の拡大が予想されており、医療用眼科薬の国内トップシェア企業として、中長期的な成長が期待される。</p>	5.6%

※ファンドに関する参考データをご提供する目的で作成したもので、個別銘柄を推奨するものではありません。

※アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパンの情報を基に当社が作成しています。

※上記は作成時点における見解であり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 日本株式の中から、成長性があり、株価水準が割安と判断される銘柄に投資します。
2. 個別銘柄の選択はアリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパンに委託します。

独自の調査力・体制

「グラスルーツ（草の根）」調査やグローバルな社内SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を通じて、事実検証による強い裏づけのある銘柄を発掘します。

3. 高い確信度を持つ銘柄*に絞って投資します。

*15～18銘柄程度を基本とします。

長期的、戦略的観点より、経験豊富なアナリストがトップ推奨銘柄を持ち寄り、適度な業種分散を図ります。

※本ファンドは、JPX日経インデックス400を運用上の参考指標とします。なお、本書において別段の注記がない場合は「本ファンド」に「マザーファンド」を含むものとします。

※本ファンドはファミリーファンド方式で運用を行います。委託会社は、本ファンドが主要投資対象とするマザーファンドの運用をアリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン株式会社（投資顧問会社）に委託します。投資顧問会社は運用の権限の委託を受けて、マザーファンドの運用指図を行います。

※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

※委託会社は、本ファンドと同じマザーファンドに投資を行うベビーファンドを私募投資信託にて設定・運用を行っております。当該私募投資信託の購入・換金等に伴う資金変動等により、マザーファンドにおいて売買等が生じた場合には、本ファンドの基準価額に影響が及ぶ場合があります。また、本ファンドと当該私募投資信託は異なるファンドであるため、ファンドに係る開示等に差異が生じる可能性があります。

市況動向や資金動向その他の要因等によっては、運用方針に従った運用ができない場合があります。

基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資を行いますので、基準価額は変動します。したがって、**投資家の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。**本ファンドの信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資家の皆さまに帰属します。

基準価額の変動要因となる主なリスク

■ 株価変動リスク

本ファンドは実質的に日本の株式に投資を行いますので、株価変動リスクを伴います。一般に株式市場が下落した場合には、本ファンドが実質的に投資を行う株式の価格は下落し、本ファンドの基準価額が下落し投資元本を割り込むことがあります。また、株式の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合、当該企業の株式の価格が大きく下落し、本ファンドの基準価額により大きな影響を及ぼします。また、国内や海外の社会・政治・経済情勢等の影響を受けて、本ファンドの基準価額が大きく変動する可能性があります。

■ 流動性リスク

本ファンドは実質的に一部、日本の中小型株式に投資を行う場合がありますので、流動性リスクを伴います。中小型株式は、一般に株式市場全体の平均に比べ市場規模や取引量が少ないため、経済状況の悪化や、本ファンドに大量の設定解約が生じた場合等には、市場実勢から期待される価格や評価価格通りに取引できない可能性があり、本ファンドの基準価額の下落要因となる場合があります。

■ 集中投資リスク

本ファンドは実質的に少数の銘柄に集中投資を行いますので、多くの銘柄に分散投資を行った場合と比べて、1銘柄の株価変動による影響が大きいと考えられます。そのため、本ファンドの基準価額は、日本の株式市場全体の平均的な値動きにかかわらずより大きく変動する場合や、市場全体の動きとは異なる動きをする場合があります。投資対象とする特定の銘柄を大量に売却しなければならなくなった場合、市場動向および取引量の状況によっては、不利な価格での取引を余儀なくされる可能性があり、本ファンドの基準価額が下落し投資元本を割り込むことがあります。

※上記は基準価額に影響を及ぼす主なリスクであり、上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）の「投資リスク」をご覧ください。

お申込みメモ

お申込みメモ

■ 購入単位

販売会社により異なります。

■ 購入価額

購入申込受付日の基準価額

■ 購入代金

販売会社が指定する日までにお支払いください。

■ 換金価額

換金申込受付日の基準価額

■ 換金代金

原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から、お申込みの販売会社を通じてお支払いいたします。

■ 信託期間

原則として無期限（設定日：2015年3月13日）

■ 繰上償還

受益権の総口数が10億口を下回る事となった場合等には繰上償還となる場合があります。

■ 決算日

毎年3月10日および9月10日（ただし、休業日の場合は翌営業日）

■ 収益分配

年2回の決算時に原則として収益の分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。

※運用状況によっては、分配金の金額が変わる場合や、分配金が支払われない場合があります。

■ 課税関係

課税上は、株式投資信託として取扱われます。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。

本ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

配当控除の適用が可能です。

※税法が改正された場合等は変更される場合があります。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

■ 購入時手数料

購入価額に、**3.3%（税抜3%）**を上限として販売会社毎に定める率を乗じて得た額とします。

■ 信託財産留保額

なし

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

■ 運用管理費用（信託報酬）

純資産総額に対して**年率1.6885%（税抜1.535%）**

※運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。

※マザーファンドの投資顧問会社（運用指図の外部委託先）に対する報酬は、委託会社が本ファンドから受ける報酬から支払われますので、本ファンドの信託財産からの直接的な支弁は行いません。

■ その他の費用・手数料

信託事務の諸費用	監査費用、印刷費用等、計理業務およびこれに付随する業務に係る費用等、信託事務の諸費用が信託財産の純資産総額の年率0.2%を上限として日々計上され、毎計算期末または信託終了のときに信託財産から支払われます。
売買委託手数料等	有価証券売買時の売買委託手数料、借入金・立替金の利息、ファンドに関する租税等がファンドから支払われます。これらの費用は運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※上記手数料等の合計額については、ファンドの保有期間に応じて異なりますので、表示することができません。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更される場合があります。

委託会社その他関係法人の概要について

委託会社

● あおぞら投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2771号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

電話：050-3199-6343（受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで）

ホームページ・アドレス：<https://www.aozora-im.co.jp/>

信託財産の運用の指図等を行います。

投資顧問会社

● アリアンツ・グローバル・インベスターズ・ジャパン株式会社

委託会社より運用の指図の権限の委託を受けて、マザーファンドの運用指図を行います。

受託会社

● 三菱UFJ信託銀行株式会社

信託財産の保管・管理等を行います。

取扱販売会社一覧

販売会社名 登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社あおぞら銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号	○		○	
a u カブコム証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
株式会社SBI証券 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○		○	○
GMOクリック証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第77号	○		○	
中銀証券株式会社 金融商品取引業者 中国財務局長（金商）第6号	○			
株式会社筑波銀行 登録金融機関 関東財務局長（登金）第44号	○			
東海東京証券株式会社 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第140号	○	○	○	○
とうほう証券株式会社 金融商品取引業者 東北財務局長（金商）第36号	○			
株式会社トマト銀行 登録金融機関 中国財務局長（登金）第11号	○			
株式会社富山銀行 登録金融機関 北陸財務局長（登金）第1号	○			
松井証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
丸八証券株式会社 金融商品取引業者 東海財務局長（金商）第20号	○			
株式会社南日本銀行 登録金融機関 九州財務局長（登金）第8号	○			
楽天証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○
株式会社イオン銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社) 登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者:マネックス証券株式会社) 登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○		○	

※販売会社は本ファンドの販売業務等を行います。
 ※投資信託説明書（交付目論見書）は、上記の販売会社で入手することができます。
 ※販売会社は、今後変更となる場合があります。

本資料のご利用にあたってのご留意事項

■本資料はファンドの運用状況に関する情報提供を目的に当社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡しいたしますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は値動きのある有価証券等（外国証券には為替リスクもあります。）に投資するため、基準価額は変動します。したがって、投資元本および分配金が保証された商品ではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成されていますが、当社がその正確性・完全性を保証するものではありません。■本資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客さまが負うことになります。■本資料に記載された市況や見通し、数値、図表、意見等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来の動向や結果を示唆あるいは保証するものではありません。また、将来予告なしに変更する場合があります。■投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象とはなりません。また、証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。■投資信託は金融機関の預金と異なり、元金および利息の保証はありません。